

みずほCustomer Desk Report 2019/07/12号(As of 2019/07/11)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	108.20
TKY 9:00AM	108.34	1.1259	121.97	GBP/USD	1.2513
SYD-NY High	108.53	1.1285	122.13	AUD/USD	0.6958
SYD-NY Low	107.86	1.1245	121.63		
NY 5:00 PM	108.50	1.1256	122.09		
NY DOW	27,088.08	227.88	日本2年債	-0.1900	0.00bp
NASDAQ	8,196.04	▲ 6.49	日本10年債	-0.1400	▲ 1.00bp
S&P	2,999.91	6.84	米国2年債	1.8666	3.99bp
日経平均	21,643.53	110.05	米国5年債	1.8981	7.13bp
TOPIX	1,578.63	7.31	米国10年債	2.1422	8.18bp
シカゴ日経先物	21,610	65	独10年債	-0.2665	4.10bp
ロンドンFT	7,509.82	▲ 20.87	英10年債	0.8350	7.80bp
DAX	12,332.12	▲ 41.29	豪10年債	1.3390	0.05bp
ハンセン指数	28,431.80	227.11	USDJPY 1M Vol	5.48	▲ 0.00%
上海総合	2,917.76	2.46	USDJPY 3M Vol	5.69	▲ 0.03%
NY金	1,406.70	▲ 5.80	USDJPY 6M Vol	5.97	▲ 0.02%
WTI	60.20	▲ 0.23	USDJPY 1M 25RR	-1.00	Yen Call Over
CRB指数	183.68	▲ 0.49	EURJPY 3M Vol	5.89	0.01%
ドルインデックス	97.05	▲ 0.05	EURJPY 6M Vol	6.36	0.05%

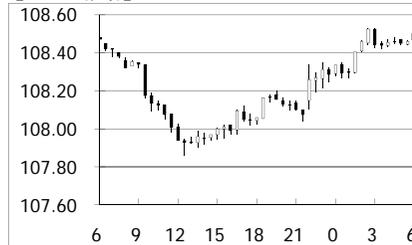
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
7月11日	21:30	米 CPI(前月比/前年比)	6月 0.1%/1.6%	0.0%/1.6%
	21:30	米 コアCPI(前月比/前年比)	6月 0.3%/2.1%	0.2%/2.0%
7月12日	23:00	米 パウエルFRB議長 上院議会証言「世界経済の減速に伴う製造業の悪化を警戒」		
	00:10	米 ウィリアムズ・ニューヨーク連銀総裁 「19年の米成長率見通し、2.25%程度」		
	01:15	米 ボスティック・アトランタ連銀総裁 「金融政策は良い位置にある」		
	01:30	米 パーキン・リッチモンド連銀総裁 「インフレは予想以上に目標値に近い可能性」		
	06:00	米 カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁 「インフレ期待押し上げる利下げ支持」		

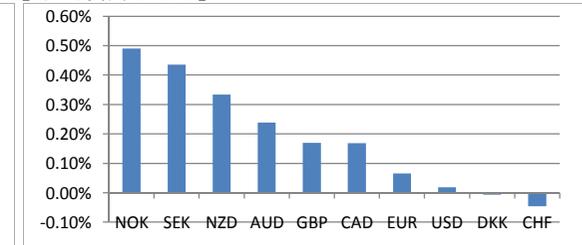
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
7月12日	中	貿易収支	6月 \$45.00B	\$41.66B
	21:30	米 PPI最終需要(前月比/前年比)	6月 0.0%/1.6%	0.1%/1.8%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	107.80-108.80	1.1190-1.1290	121.40-122.60

【マーケットインプレッション】

昨日のドル円は行って来いの展開となった。前日のパウエルFRB議長の議会証言や、6月会合のFOMC議事録要旨が市場ではハト派寄りの内容だったと受け止められ、利下げへの期待が高まる中、東京時間のドル円は一時108円台を割りこむ展開。しかし、海外時間に渡ると、米株式市場が堅調に推移し、米長期金利が上昇。ドル買い地合いとなる中で、一時108円台半ばまで反発した。

本日のドル円は上値の重い推移を予想。引き続き、7月のFOMCでの政策動向に注目が集まっている状況。次回FOMCでの利下げはほぼ織り込まれているが、「どの程度の利下げを実施するか」という点に注目が集まる。本日は米6月PPIが発表予定だが、4月、5月と前月比続落しており、インフレ率の低位推移が確認されれば、利下げ織り込みに影響を与えることになろう。ドル円においては下落圧力の強まる展開に警戒したい。

東京	東京時間108.34レベルでスタートしたドル円は、前日海外時間のパウエルFRB議長の議会証言やFOMC議事要旨のハト派内容を受けて、引き続き上値の重い展開。イラン籍船舶がホルムズ海峡で英タンカーに接近したとの報道で地政学リスクも意識され、108円台を割り込み一時107.86まで下落。その後は買い戻しが入り、108円台を回復すると小動きとなり、108.01レベルで海外市場へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は108.01レベルでオープン。材料が特段出なかったこともあり107.97-108.20の小幅推移で、東京時間の下げを少し戻し108.10レベルでNYに渡った。ポンドは1.2527レベルでオープン。ドルが売られる中でポンドにも買戻し。カーニー英中銀総裁がブレクジットへの備えに自信を示したこともあって一時1.2570まで買われる。結局1.2556レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	10日のパウエル議長のハト派な議会証言内容を受け、今月末25bpの利下げ期待と一部では50bp期待も継続し、海外市場で先週金曜の雇用統計前のレベル付近である107.86まで下落したドル円は、108.10レベルでNYオープン。朝方は米6月CPI前月比が予想(0.0%)を上回る0.1%となったことからドル円は108.34まで戻す。すぐに戻り売りに108.14まで反落したものの、米金利が上昇する中、ドル買いが再び強まり、108.35まで戻す。その後はトランプ大統領が「中国は買うと言ったのに、米農作物を買っていない」と不満をあらわにしたことから、ドル円はやや小緩むものの、米タウが取引時間中の高値を更新する中、債券市場では売りが強まり、米金利が上昇する展開に、ドル円は108.35まで戻す。パウエル議長の上院での議会証言は、昨日の下院での証言と同様の内容であったことから、ドル円の反応は限定的となった。午後は、ドル買いが継続する中、108.53まで戻し、108.50レベルでクロスした。一方、昨日のパウエル議長の証言内容を受けたドル売りに海外市場で1.1282まで戻したユーロドルは、1.1278レベルでNYオープン。朝方は、一旦1.1285まで戻すものの、米CPI結果を受けたドル買戻しに1.1251まで反落する。IMFが「リスクが具現化すれば、ユーロ圏の当局は国内、中央レベルでより積極的な措置で対応する準備をすべき」との見解を明らかにしたものの、ユーロドルの反応は限定的となった。午後はドル買いが再び強まったことから1.1246まで下落し、1.1256レベルでクロスした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:小笠原・田家